きかんしゃ1414

フェルト作　鈴木武樹訳

世界の幼年どうわ

◈ 世界の幼年どうわ・19

きかんしゃ1414

フリードリヒ＝フェルト作・鈴木武樹訳

N. D. C. 934　偕成社　1977年　p. 128　22 cm

Feld. Friedrich: VIERZEHN-VIERZEHN GEHT AUF URLAUB, 1963.

1968年6月　1刷
1977年2月　29刷

訳　者　鈴木武樹
発行者　今村　広
印刷者　草刈龍平

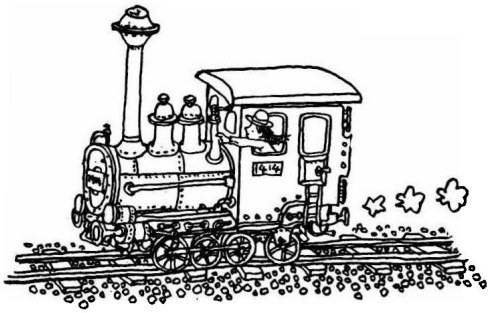
発行所　株式会社　偕成社
東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3の5
振替　東京　5-1352番

本文印刷　中央精版印刷株式会社
多色印刷　小宮山印刷株式会社
製　本　中央精版印刷株式会社

検印省略

◇ この本は，著作権所有者フリードリヒ＝エティンガー出版社と契約し，独占翻訳出版権をとったものです。
© 鈴木武樹，赤坂三好，1968
◇ 落丁本乱丁本は，おとりかえします。

8397—409190—0904　Printed in Japan.



きかんしゃ1414

フリードリヒ=フェルト作
鈴木武樹訳
赤坂三好絵

世界の幼年どうわ

VIERZEHN-VIERZEHN GEHT AUF URLAUB
Die Geschichte einer Lokomotive

by Friedrich Feld

Original German edition published by Verlag Frieldrich Oetinger, Hamburg.
Copyright © 1963 by Friedrich Feld.
Japanese language edition rights arranged through Charles E. Tuttle Co. Inc., Tokyo.

＊はじめに

１４１４　というのは、ものを　いう、ふしぎな　きかんしゃの　ばんごうです。――そう、にんげんで　いえば　なまえですね。

この　きかんしゃは、もと町と　しん町という、二つの　いなか町の　あいだを　いったり　きたりしているのですが、あるとき、しごとの　つかれが　いっぺんに　でて、はしれなくなった　ことが、ありました。

やさしい　うんてんしの　アルフレートは、えきちょうさんには　ないしょで、この　きかんしゃに、こっそりと　やすみを　あげました。

１４１４は、よるになると、よろこびいさんで　たびに　でましたが……。

すずき　たけじゅ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

もくじ

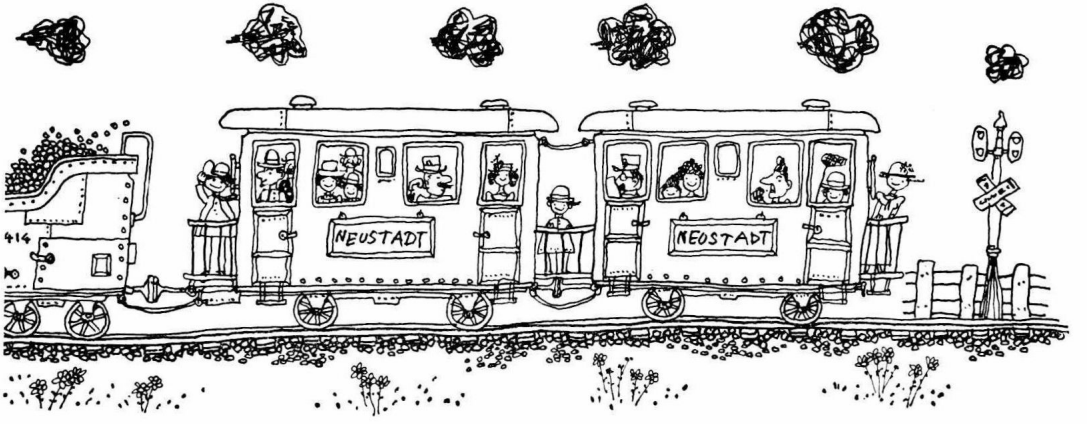
1 おかしな こえ……10

2 アルフート けっしんを する……20

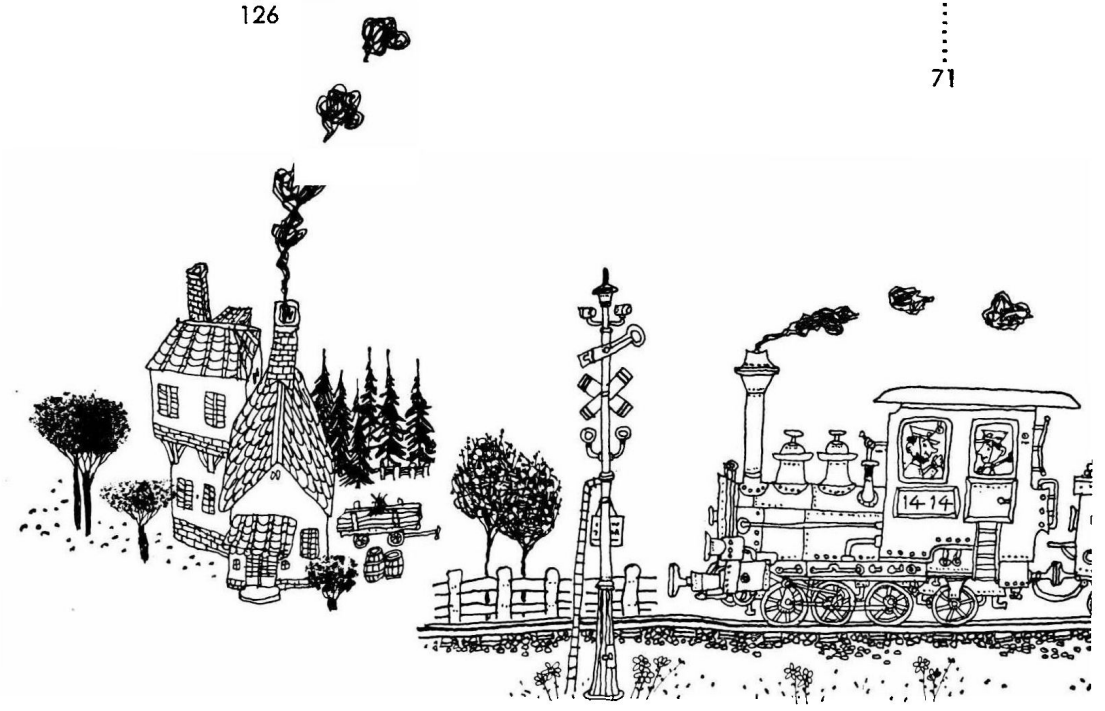
3 ぼうけんが はじまる……32

4 さあ、たいへんだ！……44

5 おや、なんだろう？……58



6 なかなか、うまく いかない……71
7 あっぱれ 1414！……87
8 ほんとに ありがとね……98
9 ただいま！……112
「きかんしゃ1414」について（解説）……126



筆者紹介

原作者　フェルト　オーストリア生まれ，イギリス在住の作家。1938年迄チェコのパラマウント映画会社に勤め，その後，イギリスのＢＢＣ放送局　ロイターの通信員をし，現在までに30冊以上の子供の本をかいている。

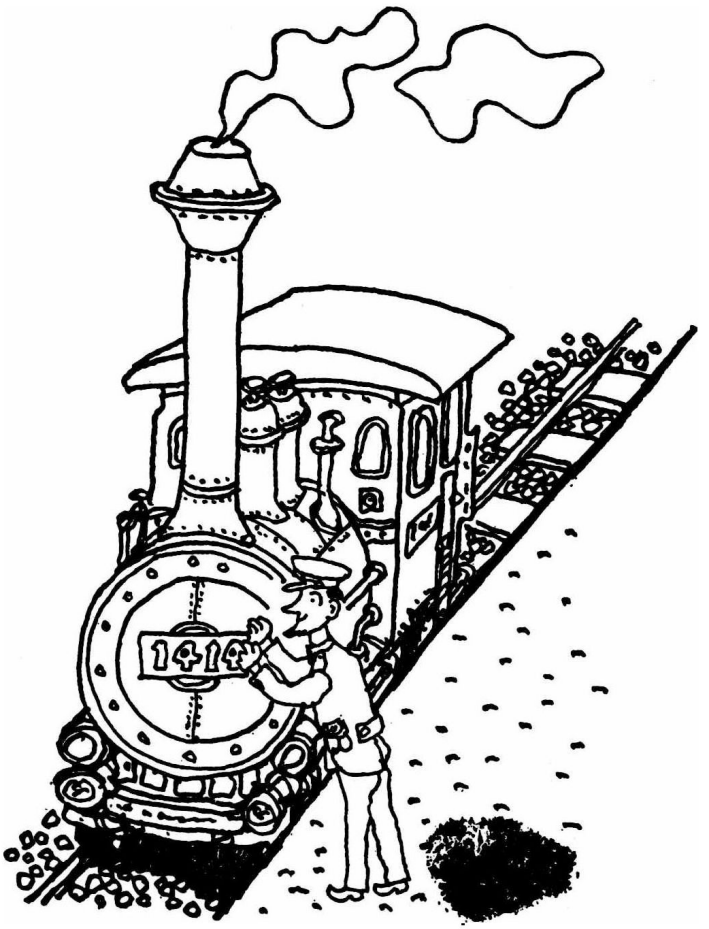
訳者　鈴木武樹（すずきたけじゅ）　1934年静岡県生まれ，東京大学独文科卒。明治大学助教授。青山学院大学講師。「少年少女聖書物語」「ゆかいなどろぼうたち」などドイツ・北欧の児童書の紹介につとめる。

画家　赤坂三好（あかさかみよし）　1937年東京生まれ。建築学・版画・染色の勉強をし，現在は，子供たちに楽しい本を与えたいと，ユニークな挿絵・装幀の仕事で活躍中。

「やすみだ、やすみだ！」きかんしゃ1414は
よろこびいさんで、たびに　でかけました。

きかんしゃ1414

フェルト作
鈴木武樹訳



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

おかしな こえ

「みなさん、おのりください！　みなさん、おのりください！　しん町ゆきの　れっしゃが、はっしゃいたします！」

えきちょうさんが　しゅっぱつの　あいずの　はたを　みぎひだりに　ふりました。

「みなさん　おのりください！」

えきちょうさんは　もういちど　きしゃを　まえから　うしろまで、ずうっと　みわたしました。ばんじ、オーケーです。

「ようし！」

えきちょうさんは、あいずの　はたを　たかく　あげると、しゅっぱつの　ふえを、ピーッと　ながく　のばして　ふきました。

シュッシュッ　ポッポ――そう　いいながら、きかんしゃが、うごきだ

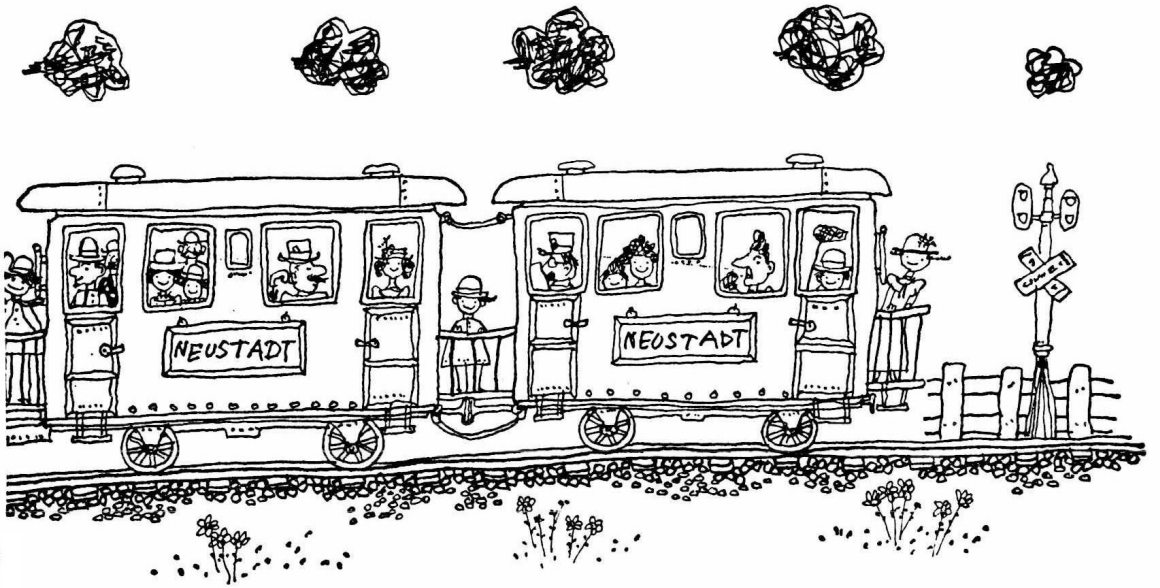
しました。

この　きかんしゃが　ひいていくのは、ながい　きしゃではありません。えきから　えきまでも、ながい　みちのりではありません。あいだに　えきは　ひとつも　なくて、むこうに　つけば、せんろは　それで　おしまいでした。

こっちの　町は　もと町と　いい、むこうの　町は　しん町で、この二つの　町の　あいだを、小さな　きしゃが、一日に　なんかいか、とけいの　ふりこのように、いったり　きたりしているのです。

きかんしゃの　うんてんしの　アルフレートは、ハンドルを「にぎりながら、ふしぎそうに　あたまを　ふりました。それから、大きな　くろいシャベルを　もって、うしろに　たっている、せきたんがかりの　カールのほうを、ふりむきました。

「おかしいなあ、きょうは、きかんしゃが　どうかしてるぜ。いつもどおり、せきたんを　たくさん　くべたか？」

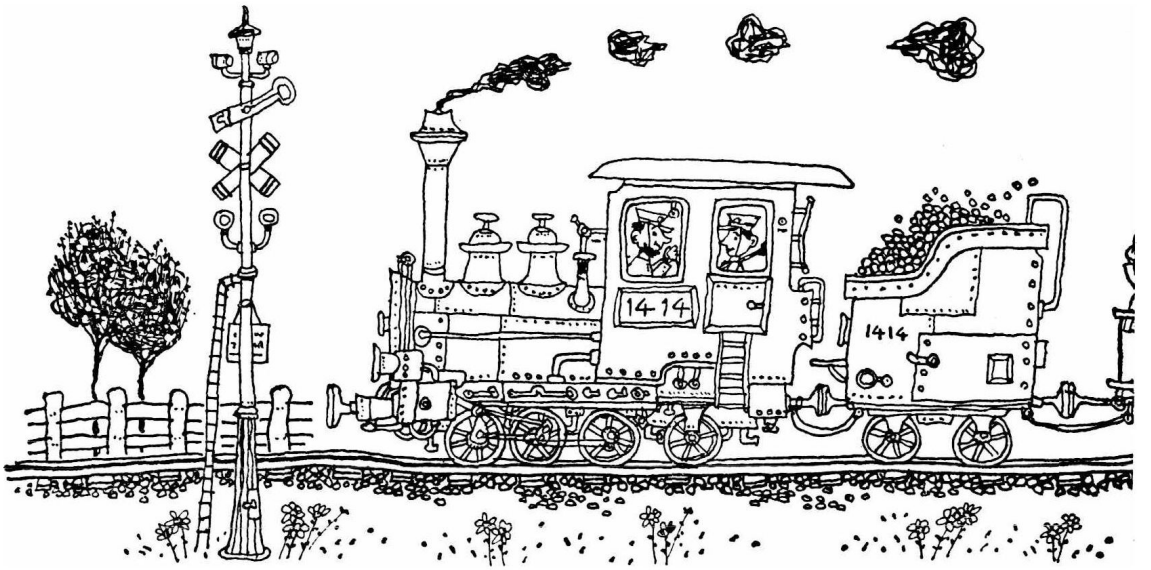


「火は、かまの　下で　もえてます。じょうきの　あつりょくも、ちゃんとしてます。」

と、こたえて、カールは、ハンカチでひたいの　あせを　ふきました。なにしろ、とても　あつい、なつの　日のことだったからです。

「おかしいなあ、いったい　どうして、きょうに　かぎって　きかんしゃのやつ、はしりたがらないんだろ。」

くるまは　まわっているのですが、くるまの　一本ぢょうしの　おんがくの　あいだから、なにか、人の　こえみたいな　おとが、きこえてくるよう



な　きがするのです。その　こえは、かなしそうに　こう　いっているみたいでした。

「とても　つかれちゃった、とても　つかれちゃった。きょうは　だめだ、きょうは　だめだ。」

アルフレートは、じっと　耳を　すましました。そうして、

「なにか　きこえたか？」

と、カールに　ききました。

「いいや、なんにも。いったい　どうしたんです？」

そう　こたえて、カールは　また　シャベルで　せきたんを、火に　くべ

ました。
「なあに　その……きょうは　おくれてるぞ。どうも　この　おくれは、とても　とりもどせそうにも　ないな。」
と、アルフレートは　いいました。
　このとき、あの　こえが、また　くるまの　うなりごえの　中から　きこえて、こう　いいました。
「とても　つかれちゃった、とても　つかれちゃった。きょうは　だめだ、きょうは　だめだ。」
「きかんしゃの　こしょうだ。」と　アルフレートは、きっぱり　いいました。「さあ、ようやく　ついたぞ。」
　きしゃは、しん町えきに　ゆっくりと　はいっていきました。
「しん町ーい！　みなさん、おおりください！」
と、もと町の　えきちょうさんに　そっくりの　かおをした、しん町の　えきちょうさんが　さけびました。

「みなさん　おおりください！」
おきゃくが　みんな　おりてしまうと、えきちょうさんは、きかんしゃの　ところへ　いって、アルフレートの　かおを　にらみつけました。
「十三ぷん　おくれたぞ！　わかってるか？」
「わかってます。だけど　しかたがないんです。きかんしゃの　こしょうですから。」
「なに、1(いちよん)4(いちよん)1(いちよん)4(いちよん)がか？　こいつは　いままで、いちども　こしょうを　おこしたことが　ないんだぞ。もう　六十一ねんも、この　しごとを　してるんだがな。」
と、えきちょうさんは　いいました。
「それだからですよ。なんだって　いちどは　だめに　なるものです。」
と、アルフレートは　いいかえしました。
「このことは、もと町(まち)の　ほうへ　しらせておいてくれ。ひょっとしたら　ちょっと　なおしてもらわんと　ならんのかもしれん。いま、しらべてる

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com